

県社協のひろば

「子どもたちと歩んだ日々」刊行 「かながわの児童福祉事業史編纂研究事業」

本県の児童福祉の歴史は古く、児童福祉施設の概要や、設立者、その関係者による文献や資料等が数多く残されています。しかし、今日までそれらが一つに取りまとめられることはなく、このままでは時の経過とともに、貴重な文献が散逸してしまうのではないかと、この危惧が関係者の間で膨らんでいました。

そこで本会では、神奈川県における児童福祉に関する制度や事業の変遷を、福祉資料室で保有する文献と関係者からの聞き取りや調査から分析し、慈善事業から社会福祉事業へという社会状況の大きな変化とともに、先人たちの輝かしい業績を冊子としてまとめ、残すことに着手しました。

編集にあたっては、元・神奈川県中央児童相談所長、鎌倉女子大教授などを歴任された



本県の児童福祉事業の変遷をまとめた
(427ページ、定価3,000円)

箕原實氏を委員長に編纂研究委員会を設置し、ほか五名の委員により、平成十六年度から今年度にかけて、十回の委員会を開催し、編集作業をすすめてまいりました。

そして本年四月から原稿の取りまとめを事務局で行い、十一月下旬に、「子どもたちと歩んだ日々」かながわ・児童福祉事業の軌跡」として出版の運びとなりました。

本書では児童福祉の中でも歴史が古く、神奈川の近代的な社会事業の萌芽ともいえるべき「児童養護施設及び関連施設」を中心に取上げています。昨今では終戦直後のような孤児や浮浪児こそいないものの、児童養護施設そのものの数は減少していません。しかし、増え続ける児童虐待など、子どもたちを取り巻く環境は必ずしも最善のものとは成りえていないのが現状です。

本書は、施設職員や民生委員児童委員、研究者、学生など、今日の、また将来の児童福祉に関わる方々にぜひ読んでいただきたい一冊です。戦後六十年という大きな節目を迎えた今、子どもたちと共に歩んだ人々の熱い想いや、子どもたち一人ひとりの心の叫びを知っていただければ幸いです。

◆問合せ〓本会研修研究課

☎045-311-11429

セルフヘルプ・グループ提案による協働事業

セルフヘルプ・グループ（以下、SHG）とは、「いのちや生活に関わる共通の悩みや問題を抱える当事者本人が、自発的につどい生まれるグループ」です。

かながわボランティアセンターでは、かな

がわ県民センター十五階に「セルフヘルプ活動コーナー」を設置し、グループがピアサポートに利用できる相談室やフリースペース、SHGに関連するセミナーなどを開催しています。また、今年度で二年目となる「SHGからの提案による協働事業」は事業への助成だけでなく、企画から広報、実施の当日、事業評価までボランティアセンターと一緒に取り組むものです。広報などの案内は、共催していることが関係機関の信頼につながり、また普段から温めていた企画を形にしていける経験は、SHGの活動の幅を広げていく機会となつていきます。

今年度の協働事業は四件。ひきこもり脱却者からのリレートークや、SHGが医療に関する相談を受ける際に注意すべきことを学びあうセミナー、精神医療の現状と兄弟姉妹の想いを語り合う事業、リーダーの悩みを分かち合うミーティング等を実施しています。これらの企画に共通することは、外部の人を招いての講演だけでなく、当事者からのメッセージを伝えあうことにあります。

SHGのミーティングの内容には、私たちの想像を超えた生活について語られる方もいます。当事者からのメッセージには、当事者本人が今の自分の生き方を問い直し、新たな人生を歩んでいこうとする力を秘めています。

ボランティアセンターのスタッフがSHGの温めていた企画を協働して実現するためのプロセスを共有することは、その意識を刺激し続け、新たな課題への取り組みを後押しするものでもあるのです。

（かながわボランティアセンター）